仙北市立西明寺小学校　学校報

かたくり

学校教育目標　夢ふくらませ　心かがやく

令和５年度
第48号

2023. 12. 5

「3年くりっこ探検隊：事後学習」
～私たちの田沢湖の魅力を体感しよう（辰子姫伝説）～

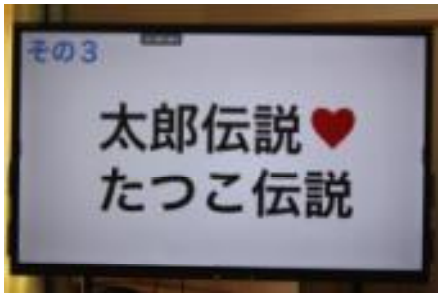
４日（月）、３年生のくりっこ探検隊事後学習が行われました。たつこ姫伝説など地域に伝わる伝説に関する地域案内人として門脇さんにおいでいただき、「西明寺のふしぎ４話」というテーマで、「漆原のならのき石（ばけ石）」、「真山寺の乳イチョウ」、「太郎伝説♥たつこ伝説」、「面箱石」という４つの内容についてお話をしていただきました。

「漆原のならのき石（ばけ石）」と「面箱石」は、妖怪や魍魎を人間が退治したり封じたりする内容。「真山寺の乳イチョウ」は、自然の神秘や不思議さを強く感じされる内容。「太郎伝説♥たつこ伝説」は、十和田湖、八郎湖、田沢湖を巡る三湖伝説に関する壮大な内容。子どもたちは、４５分間、引きつけられるように聞き入っていました。

その中で、門脇さんが何度も「伝説だけど…」という言葉を使われていました。子どもたちは、初めのうちは作り話くらいに考えていたようでしたが、八郎太郎が泊まったとされる家が１５軒あり、そのうち１１軒が、現在でも残っていたり、辰子生誕の地に墓があったり、実際に退治されたばけ石や封じた面箱石があったりと、子どもたちからは、「伝説なのに、なぜ実際に泊まった家があるの？」「伝説じゃなくて本当の話なの？」「じゃあ、たつこ姫伝説も本当の話？？？」という声が聞こえてきました。子どもたちは、伝説の不思議さと現実との狭間に迷い込んだようです。

学習後には、子どもたちから「楽しかったけど怖かった。」という正直な感想が聞かれました。伝説の不思議さと現実との狭間での迷いが、子どもたちの地域への関心のさらなる高まりへとつながってくれたと考えています。

地域案内人としてご協力いただいた門脇さん、本当にありがとうございました。



「漆原のならのき石（ばけ石）」：門屋字漆原

今から４００年も前の事、西木村西明寺の漆原付近に、毎夜丑満頃に独眼の大入道が出現し道行く人を捉え、錫杖を振り回して脅しつけたり、時に人家に乱入して悪戯をしたりして人々を怖がらせた。村人達が巫女に頼んでお告げを聞くと、北端れの墓地にある「ならのき石」が化けて出るとわかった。人々は「ならのき石」を祀ったが、その甲斐なく夜になると妖怪が出て悩まされた。村の八幡神社の神主の慈明院法師は、剣術が達者で妖怪の話を聞くと一笑にふしたが、祈祷を頼まれ出かけた夜、帰りに墓地のそばまで来ると、大入道が立ち、掴みかかってきた。法師は、腰の一刀で斬りつけ奮戦し、渾身の力で最後の一刀をあびせたところ手応えがあった。翌朝法師は墓地の近くに来てみたら大入道は石と化し、石には刀痕が残されていた。それ以来妖怪は姿を現さなくなり、化け石は今も漆原の北端れの地に祀られている・・。

※「西明寺村郷土志」現代語訳

「真山寺の乳イチョウ」：華光院 真山寺（西木町小山田字石川原281）
※県指定天然記念物

立派な乳柱があることから、昔は母乳の不足している母親がイチョウの下がった乳に白紙を結んでお参りすると、母乳の出が良くなると言われていたことから、乳イチョウと呼ばれています。

「根雪になる雪が降る晩、てっぺんの一葉がカサッと落ちて下の葉に乗り、下の葉はその重さにたえられずカサカサッと落葉して下の葉に乗り、さらに下の葉がその重さにたえられずカサカサカサッと落葉して、一晩で全てが落葉する」…、そんな言い伝えがあります。

「太郎伝説♥たつこ伝説」

秋田県には龍神伝説である「三湖物語（三湖伝説）」が伝わっています。これは、八郎潟（八郎湖）、十和田湖、田沢湖の３つの湖を舞台とし、秋田県下を股にかけた物語で、主役となるのが八郎潟の龍神「八郎太郎」です。

八郎太郎は、鹿角に生まれた若者が、ある事件をきっかけに龍に化身し十和田湖をつくりその主となったが、南祖坊との戦いに敗れて十和田湖を追い出され、次の安住の地としたのが八郎潟でした。そして、田沢湖の辰子姫と出会うという壮大な伝説です。

※八郎太郎伝説 ｜ 大潟村百科事典
https://www.vill.ogata.akita.jp/encyclopedia/history/index.html

「面箱石」

大沢部落は田子ノ木部落などと同じく、田沢湖のほとりにあるが、その部落の翁岱の草叢に祠があり、いつの頃からか一つの翁の面が納められてあった。気味悪い面の噂が広まり誰も祠に近寄らなかった。月が出て霧がこめる頃、二、三の魍魎があらわれ、扉が開き、翁の面が魍魎にはりついて、宙に浮いて舞い始める。空のどこからか唄が始まると舞は活発となり、月が落ちる頃になると、魍魎の姿は消えた。毎夜続く怪異に外に出る者もなく、村の肝煎りが寄合ではかった結果、大きい石に面だけ入る穴を開け、面を中に入れ、石ふたをすることになった。早速そのとおりにしたところ、湖上に霧がただよい山の端を月が離れても、面箱石の蓋は永劫に開くことなく魍魎も出現しなくなり、今に至っているという。

※秋田の昔話・伝説・世間話　口承文芸検索システムより
http://namahage.is.akita-u.ac.jp/monogatari/